青森県企画政策部統計分析課

平成２８年１２月２２日

**平成２８年度学校保健統計調査速報（青森県分）**

**１　調査の目的**

　　　この調査は、学校における幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的とする。

**２　調査の周期・期日**

　　　周期　　昭和２３年度から毎年実施（昭和２３年度から昭和３４年度までは、統計の名称を「学校衛生統計」として実施）。

　　　期日　　学校保健安全法による健康診断の結果に基づき、平成２８年４月１日から６月３０日までの間に実施。

**３　調査の対象**

満５歳から１７歳までの幼児、児童及び生徒（以下「児童等」という。）の一部（抽出調査）。

なお、調査実施学校（園）数、調査対象者数及び抽出率は、次のとおりである。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 区 分 | 学校（園）総数 | 児童等総数 | 調査実施学校（園）数 | 発育状態調査 | | 健康状態調査 | |
| 調査対象者（人） | 抽出率（％） | 調査対象者（人） | 抽出率（％） |
| 幼稚園 | 258 | 4,978 | 33 | 952 | 19.1% | 1,038 | 20.9% |
| 小学校 | 293 | 60,644 | 58 | 5,502 | 9.1% | 20,859 | 34.4% |
| 中学校 | 165 | 35,505 | 39 | 4,407 | 12.4% | 14,099 | 39.7% |
| 高等学校 | 80 | 36,620 | 28 | 2,519 | 6.9% | 17,798 | 48.6% |
| 計 | 796 | 137,747 | 158 | 13,380 | 9.7% | 53,794 | 39.1% |

注1:発育状態調査は、調査実施校に在籍する児童等のうちから年齢別男女別に抽出された者を対象とし、

健康状態調査は、調査実施校の在学者全員を対象としている。

注2:学校（園）総数及び児童等総数は平成２８年度学校基本調査（青森県分）による。

注3:幼稚園の児童等総数は「５歳児」のみの人数である。

**４　調査事項**

（１）児童等の発育状態（身長及び体重）

（２）児童等の健康状態（栄養状態、脊柱・胸郭・四肢の状態、視力、聴力、眼の疾病・異常の有無、耳鼻咽頭疾患・皮膚疾患の有無、歯及び口腔の疾病・異常の有無、結核の有無及び結核に関する検診の結果、心臓の疾病・異常の有無、尿、その他の疾病・異常の有無）

≪利用上の注意≫

(１)　 この速報は、文部科学省がまとめた「平成２８年度学校保健統計調査速報」の一部（青森県分）を要約したものであり、後日、「平成２８年度学校保健統計調査報告書」として文部科学省が公表する数値が確定値となる。

(２)　 年齢は､平成２８年４月１日現在の満年齢である。

(３)　 統計表の中の記号

　　「 － 」　該当者がいない場合

　 「 … 」 調査対象とならなかった場合

　「0.00」 計数が単位未満の場合

(４)　 合計の数値は､四捨五入を行っているため各項目の合計と一致しない場合がある。

平成２８年度学校保健統計調査結果の概要

１　発育状態

(１)　身　長

男子は全年齢で全国平均を上回り、女子は１６歳、１７歳を除いた年齢で全国平均を上回っている。その差が最も大きいのは、男子では１３歳の１．６ｃｍ、女子では１１歳の２．３ｃｍとなっている。

1. 男子は７歳、１６歳、女子は６歳、７歳、８歳、１０歳、１１歳、１５歳で全国第１位となっている。
2. 最大の年間発育量は、男子は１２歳から１３歳時の７．２ｃｍ、女子は９歳から１０歳時　　　　　の７．３ｃｍとなっている。

**表１　身長の平均値**



**グラフ１　身長の平均値**

**〈男〉**



★：全国1位

**〈女〉**



　　★：全国1位

**グラフ２　平均身長の推移**

**〈男〉**



**〈女〉**



(２)　体　重

男子、女子とも全年齢で全国平均を上回っており、その差が最も大きいのは、男子では

　　　　１３歳の３．１ｋｇ、女子では１１歳の２．６ｋｇとなっている。

1. 男子は６歳、７歳、１３歳、１６歳、女子は６歳、８歳から１１歳、１３歳及び１４歳で全国第１位となっている。
2. 最大の年間発育量は、男子は１２歳から１３歳時の５．５ｋｇ、女子は１０歳から１１歳時の６．０ｋｇとなっている。

**表２　体重の平均値**



**グラフ３　体重の平均値**

**〈男〉**



　　★：全国1位

**〈女〉**



　　★：全国1位

**グラフ４　平均体重の推移**

**〈男〉**



**〈女〉**



(３)　３０年前（親の世代）との比較

親の世代である３０年前の昭和６１年度と比較すると、身長・体重のいずれも、ほとんどの年齢で親世代を上回っている。

1. 身　長

男子では、５歳及び６歳を除いた各年齢で親の世代より高く、世代間の差は１３歳が最も大きく、２．４ｃｍ上回っている。

　　　　女子では、５歳、１６歳及び１７歳を除いた各年齢で親の世代より高く、世代間の差は１１歳が最も大きく、１．９ｃｍ上回っている。

1. 体　重

男子では、５歳以外すべての年齢で親の世代より重く、世代間の差は１２歳が最も大きく、２．１ｋｇ上回っている。

　女子は、５歳、１５歳、１６歳及び１７歳を除く各年齢で親の世代より重く、世代間の差は１１歳が最も大きく、１．５ｋｇ上回っている。

**表３　 ３０年前の身長・体重の平均値との比較**



(４)　肥満傾向児・痩身傾向児の出現率

肥満傾向児及び痩身傾向児の本県と全国における出現率は次のとおりで、肥満傾向児の出現率が、男子、女子とも全年齢で全国平均を上回っている。

1. 肥満傾向児

男子では、９歳の出現率が１７．０５％で最も高く、全国値との差も９歳が最も大きく、７．６４ポイント上回っている。

女子では、１６歳の出現率が１３．１７％で最も高く、全国値との差も１６歳が最も大きく、５．８１ポイント上回っている。

男子は７歳、女子は６歳から８歳、１３歳、１４歳及び１６歳で全国第１位となっている。

1. 痩身傾向児

男子では、１１歳の出現率が３．００％で最も高く、全国値との差では１３歳が最も大きく、１．２７ポイント下回っている。

女子では、１３歳の出現率が３．２５％で最も高く、全国値との差では１２歳が最も大きく、１．７６ポイント下回っている。

**表４　肥満傾向児・痩身傾向児の出現率**



**グラフ５　肥満傾向児の出現率**

**〈男〉**



　　★：全国1位

**〈女〉**



　　★：全国1位

**グラフ６　肥満傾向児出現率の推移**

**〈男〉**



**〈女〉**



２　健康状態

（１）疾病・異常の被患率等の状況

　　　健康診断受検者のうち、疾病・異常該当者（疾病・異常に該当する旨健康診断票に記載のあ

　　った者）の占める割合は、表５のとおりとなっている。

**表５　疾病・異常の被患率等**



（２）主な疾病・異常等の推移

疾病・異常等の主なものの推移は、表６のとおりとなっている。

　ア. 裸眼視力１．０未満の者

　①　裸眼視力１．０未満の者は、幼稚園を除いて、全国平均を上回っている。

　②　１０年前と比較すると、小学校、中学校、高等学校において、その割合は増加している。

　イ. むし歯（う歯）

　①　むし歯の被患率（治療済みを含む）は、全学校区分で全国平均を上回っている。

　②　１０年前と比較すると、全学校区分において、その割合は減少している。

　ウ. ぜん息

　①　ぜん息の被患率は、全学校区分で全国平均を下回っている。

　②　１０年前と比較すると、中学校を除いた学校区分でその割合は増加している。

**表６　主な疾病・異常等の推移**



**グラフ７　裸眼視力1.0未満の者の推移**

 注：幼稚園の平成２４、２５、２６、２８年度及び高等学校の平成２４年度については統計数値が公表されていない。

**グラフ８　むし歯（う歯）の者の割合の推移**



**グラフ９　ぜん息の者の推移**

